

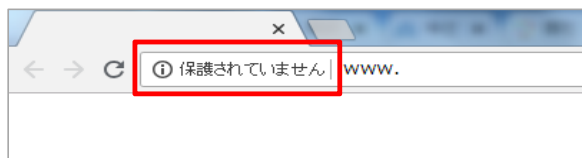
# 【ブラウザ『GoogleChrome』の仕様変更のお知らせ】

## 1: GoogleChromeの仕様変更

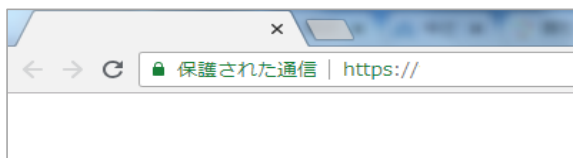
インターネット閲覧するためのソフトである「ブラウザ」には、各社から“Internet Explorer”、“Firefox”、“Safari”などが開発・提供されており、その内の一つとして、Google社から提供されている“Google Chrome”があります。



このGoogleChromeが、今夏にリリースする新バージョン「**Chrome68**」より仕様が変更されます。仕様変更に伴い、**Chromeを使っている人が**、“HTTPS”ではなく“HTTP”で配信されているホームページを見ると「保護されていません」と警告が表示されるようになります。



HTTPの場合



HTTPSの場合

### ※“HTTP”と“HTTPS”の違い

“HTTPS” … 「https://」で始まり、サーバーとの情報の送受信で暗号化通信をしているページ

“HTTP” … 「https://」で始まり、サーバーとの情報の送受信で暗号化通信をしていないページ

これについて、Google社からはホームページ内の全てのページに対し、後述の**暗号化通信の導入(=常時SSL化)**を推奨しております。

上記により、最近では「SSL化をしませんか？」といった営業トークも増えてきております。これを期にホームページの常時SSL化をしておくことで、こういった迷惑電話や迷惑メールの対策になるかと存じます。

もし導入をご希望される場合は、別紙をご参照いただき、ご検討くださいます様、宜しくお願い申し上げます。

## 2:仕様変更の背景

### ◆無線LANを利用したインターネット環境の拡大と危険性

現在、スマートフォンやタブレット、携帯ルータなどの端末が急速的に普及したことに伴い、駅や空港、喫茶店など公共施設で公衆無線LAN(Wi-Fi)を利用したインターネット接続が増加しています。

一方で、公衆無線LANはセキュリティレベルが低く、通信内容を簡単に盗聴できるツールも出現したことから、**悪意のある第三者により情報の盗聴やアカウントの乗っ取りなどのリスクが高まっています。**

### ◆常時SSL化の推進

Googleはセキュリティを最優先事項と考え、インターネットの信頼性を維持するために、HTTPSの普及に取り組んでおり、これまでは主に、「ログインページ」や「ショッピングカート」など、個人情報や機密情報を送受信するようなページを対象としていましたが、**Webサイトにおける全てのページで暗号化通信を行う『常時SSL化』**の推進に力を入れております。

## 3:SSLとは

『SSL』とは、「インターネット上でやり取りする情報を暗号化して送受信するための仕組み」です。

通販サイトなどで、氏名、住所、電話番号といった個人情報、クレジットカード情報、パスワードといった重要な情報を送信するにあたって、SSLを利用したページであれば、Webブラウザとサーバとの間の通信を暗号化し、第三者によるデータの盗聴や改ざんなどを防ぐことができます。

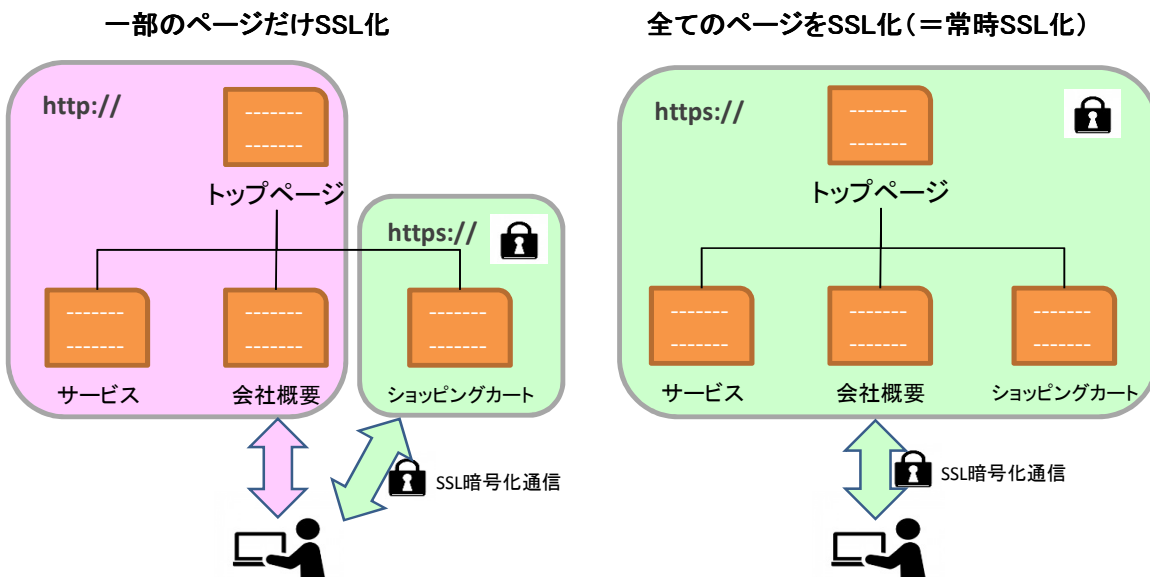
「SSLサーバ証明書」を使用し、1)通信の暗号化、2)信用できるサーバかどうかのチェックを実施することで、ネット犯罪の脅威から閲覧者を守ります。

※SSLサーバ証明書 … サイトの所有者情報、情報の暗号化に必要な鍵などのデータを持った電子証明書



## 4:常時SSL化

『常時SSL化』とは、Webサイトにおける全てのページに対して「SSLサーバ証明書」を導入しておくことで、**全てのページにおいてSSLで通信を暗号化(常時暗号化)**するものです。



## 5:暗号化通信の導入(常時SSL化)をご検討されるお客様へ

今回、弊社でもサーバー仕様変更(常時SSL化)のプランをご準備させていただきました。

御注文いただきましたお客様には、サーバー 及び ホームページに対して、常時SSL化させていただきます。

詳しくは、下記まで御連絡下さい。

▼メールでのお問い合わせ先

laffido-team@mu-gen.co.jp

▼お電話でのお問い合わせ先

0120-334-680